

縄文人の手しごと

# 道具

自然と向き合いながら、狩猟・漁労・採集を基本に食料を得て暮らした縄文人。身近にあった動物の骨や角、石、植物を使って、ひとつひとつ手作りした「道具」の数々には、センスがきらり！

日本の「ものづくり」の原点がここに。



※函館市縄文化文化交流センターの展示はアートの世界

## 石錘 《漁網のオモリ》



川や海で魚を獲る網の先端にくくりつけた石のオモリ。石には、紐を巻くための溝がついています。

※函館市縄文化文化交流センター

## 釣り針



シカの角などで作られた美しい釣り針。魚の種類や漁法によって、形や大きさが異なり、現代の釣り針につながる「返し」もついています。

※洞爺湖町入江高砂貝塚館

## 狩猟

## 石鏃 《弓矢につける》

狩りの必需品「弓矢」。矢の先端につける石鏃（矢じり）は、黒曜石などで丁寧に作られています。



## 漁労



## 鉾頭 《モリの先端につけて突く》

骨角器で様々な形に作られ、表面に模様があるものも。獲物を刺した後に紐をひくと抜けやすくなる細工も見られ、縄文人の知恵がたっぷり！

※洞爺湖町入江高砂貝塚館

## つまみ付きナイフ

捕った獲物の皮をはいたり解体したり、植物の採集につかった万能ナイフ。つまみ部分に紐を通して首や腰からかけていました。

※北海道埋蔵文化財センター



## 骨製スプーン

シカやクジラの骨で作られたさじは、儀式で使われたと推測されます。

※伊達市北黄金貝塚情報センター



## 石斧 《石を先端につける》

竪穴住居をつくるために木を切り、地面に穴を掘るなど、日常の多くの場面で大活躍。原材料は日高のアオトラ石（緑色石）が人気。



※木古内町いかりん館

※北海道埋蔵文化財センター

## 北海道式石冠・すり皿

木の実をすりつぶしたり、肉や魚を柔らかくしたりミンチにしたり。持ち手がついたすり石（石冠）は、北海道特有の形。

※伊達市北黄金貝塚情報センターでは、クルミをすりつぶす体験も



すり皿（石皿）

## 暮らし

## 縫い針

骨角器でつくられた縫い針。衣服や漁網を縫う際に使ったようです。針入れも出土しています。

※洞爺湖町入江高砂貝塚館



## 縄文ポシェット 《木の実を入れる》

青森県三内丸山遺跡では、ヒノキ科の針葉樹で編まれたポシェットがクルミとともに出土しました。

※青森県三内丸山遺跡



## 採取

## アスファルトの威力

当時の役割は接着剤。石鏃を矢の先に、釣り針を糸にそれぞれ固定するのに使われていました。秋田県など産地が限定されているので、交流の証としても貴重です。

土器に入ったアスファルト（写真提供：函館市教育委員会）



## 手しごとの大切さ

19世紀後半の英国では、「産業革命」によって機械化された工場で大規模生産される商品が溢れ、経済は発展していた。一方、手仕事の喜びや職人の誇りは失われた。こうしたなか、ウィリアム・モリスは、芸術と手仕事を通して、人間の尊厳を取り戻そうとする「アーツ&クラフツ運動」を展開した。

現在、私たちは20世紀末の「情報革命」が創り出したインターネットの広大な異空間に暮らしている。そこに人間性は保たれているだろうか。美しさや尊厳は失われていないか。何となく感じている危機感のなかで「縄文」のムーブメントが起きている。この「JOBON」もその一つだろう。

C. Abe

## HOKKAIDO BRAND

### 黒曜石

割れ口が鋭く、石鏃やナイフ、石のドリルづくりに最適。遠軽町白滝、上土幌町、赤井川村が大産地です。遠く離れた新潟県やロシアの遺跡でも見つかっています。

※北海道博物館



### アオトラ石（緑色岩）

当時、石斧の材料として一世を風靡したアオトラ石は、日高地方に露頭がある珍しい石。太い木に打ち込んでもスムーズに抜けて使いやすい。青森県三内丸山をはじめ、東北各地の遺跡でも出土しています。

※木古内町いかりん館

